

スタッフの成長と データに見えてきた変化



社会福祉法人
恵徳会

特別養護老人ホーム なの国

5年間なの国が継続してきたこと

- ・ 新人研修／中途入職者向け研修
- ・ 1年目から毎年欠かさず全職員対象の実技研修を継続できており、
職員それぞれの身体状況に合わせた技術指導を行っている
- ・ 毎月の委員会開催（下図 年間スケジュール）

2024年度版

2024年 ノーリフティングケア委員会 年間スケジュール				R6.4月 現在
地域連絡協議会の動き	委員会 内容	コアスタッフ	リンクスタッフ	一般職員など
4月 4/23 地域連絡協議会常任委員 15:00-17:30 ショートステイ研修会	組み合わせ（マニュアルファイル説明）		コアスタッフが1人は出席する	
5月	理解度チェック（STEP1～3）		理解度チェック（STEP1～3）	STEP1
6月 6/26 協議会中心ひまわり月	技術指導Ⅰ（STEP5グループ、ボード） 腰痛アンケート集計			
7月	技術指導Ⅱ（STEP4 確認リ-まちえがり）	リンクスタッフに 技術指導を実施	コアスタッフから 技術講習を受け、 テストに合格する	STEP2
8月 8/29 ノーリフティングケアフォーラム 参加による発表	技術指導Ⅲ（STEP5シート）			STEP3
9月	リンクスタッフが一級職員への技術指導 スケジュールを立てる		一級職員への技術指導スケジュールを立てる	予備月
10月 10/29 協議会中心ひまわり月				STEP4～5
11月				↓
12月 協議会（E200M）	腰痛アンケート集計	リンクスタッフのサ ポートを行う	一級職員へ技術指導 を実施する	
1月				
2月 協議会中心の月 ノーリフティング研修				
3月				

- ・ 職員の声（気づきシート）から出た相談事の解決
→今年にはスタッフ休憩室の環境見直し（ソファ購入に繋げる）
- ・ 年2回の腰痛アンケートのデータをリンクスタッフに
フィードバックできている

特別養護老人ホームなの国 概要

基本理念

「さりげなく喜び」「さりげなく温もり」「さりげなく幸せ」
をたしかに感じることができる生活を支援します

住所：福岡市西区拾六町団地2-18

定員：ユニット型特養 80名（1ユニット10名×8ユニット）
ショートステイ 2ユニット 20名

平均介護度：3.46

介護職員数：男性16名 女性37名（技能実習生5名）

介護職員の平均年齢：40.1歳



併設
サービス付き高齢者向け住宅
まほろばの里 なの国
デイサービスセンター なのくに
同法人内
特別養護老人ホーム 恵昭園
介護老人保健施設 若杉の里
養護老人ホーム 双葉

なの国で使用している福祉用具紹介

スライディングボード

イーゾーグライド 7枚
マスターグライド 1枚
スライディ 1枚
モーリフボード 1枚



床走行リフト



取り組み5年目にして

スライディングシート

10枚（各フロア2枚目安に配布）



スライディンググローブ

看護・介護スタッフ
一人1組配布



フレックスボード

4枚（必要な方に使用）



各フロアに1台
リフトがそろった！

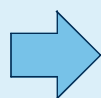
今年度のノーリフティングケア目標

令和7年度はリフトを 使いこなせるようになる！

昨年度はリフトが1台しかなかったため、
1フロア（2ユニット）のみの取り組みだった

今年は

- ・全介護スタッフが正しい方法で使うことができるようになる
- ・床走行リフトの対象者を各フロア1名ずつの計4名から始めて必要な方全員に使うことができるようになる



**ベッドからの離臥床時は、
抱え上げゼロを目指す**

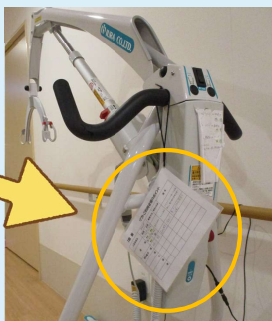


ユニットでのリフト使用定着を目指して②

各フロア1名からリフトの使用を開始したが…
慣れない手順やスリングの長さ、着座方法について不安がある職員が多かった

- ➡そこで、リフトご入居者様のポイント
(スリングの長さ、着座方法、その他ポイント)
を一目で判るような表を作成し、
リフトに吊り下げた

1階 東 リフトご利用者様のポイント				
入居者様名	スリング	着座方法	脚部の位置	備考
様	緑	両足	両足	リフトスリング着けやすい位置 高に、脚中央の位置に足先！
様	赤	両足	両足	スリングの長さ調整
様				
様				
様				



ユニットでのリフト使用定着を目指して①



- ①各フロア（20名）のうち1名を対象者に決定した。
- ②コアスタッフがスリングなどの細かい調整と評価を行った
- ③ユニットスタッフにデモンストレーションを行う。

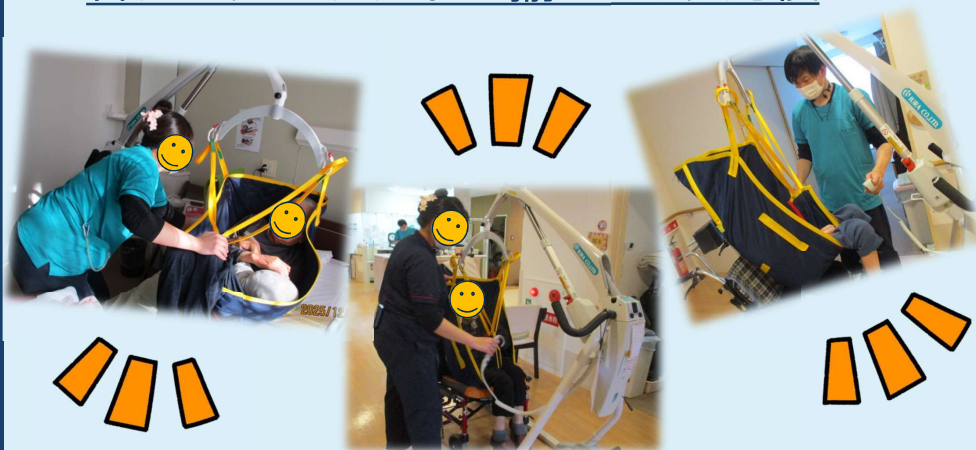


その際は動画に撮ったり、細かい決め事を申し送りノートに記載した。



ユニットでのリフト使用定着を目指して③

各フロアにリフトが揃って3ヶ月後




床走行リフト対象者4名からスタートし、
現在は**10名**に増えました！


リフト導入を通して見えたスタッフの成長

ご入居様様のポイントをまとめた表を作成したことにより


この方にもリフトを使用したいんですけど・・・



リフトに慣れてしまったので、スライディングボードすらきついです

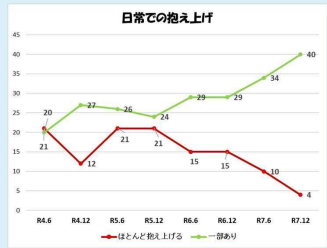


リフトを使用している方で、ベッドから起こすときはいいけど、車椅子からベッドへの移乗が難しいです。どうしたらいいですか？

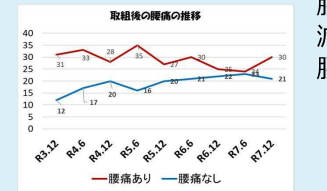


・現場スタッフからリフトへの積極的な質問が増えた
・現場スタッフ同士で検討を行ったり、コアスタッフが指導しなくてもスタッフ同士で指導できるようになった

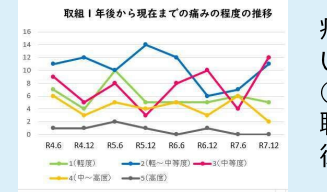
腰痛アンケートのデータから見えた変化



取組1年後からの日常での抱え上げ推移
 「ほとんど抱え上げている」は、令和4年6月の21名と比較して4名と1/5以下に減少した。
 スタッフの意識がここ5年で変化してきていることがデータでわかった。
 特に、令和5年にスライディンググローブを看・介護スタッフに配布した時期から変化が大きくなっている。



腰痛の推移については、令和7年6月までは確実に減少していた。令和7年12月の腰痛アンケートでは、腰痛ありが増加している。
 「ずっと痛い」→4名
 (内訳：持病3名で当職場で発症は1名、産休明け1名)
 「時々痛い」→26名
 (内訳：技能実習生+中途入職者+産休明けが10名)



痛みの程度の推移では、①、④、⑤は大きく変化していない。
 ②、③の増加については、上記の技能実習生や中途入職者・産休明けのスタッフにノーリフティングケア技術が浸透していないことが影響したと思われる。

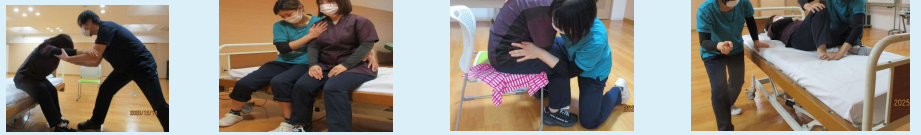
実技研修での職員の成長

中途入職者・技能実習生向け研修



技能実習生も日本語の細かなニュアンスが読み取れないこともありましたが、慣れない中頑張りました！

定期的実技研修



《実技研修に対するモチベーション》
 1年目は研修開催日に参加できないスタッフは、個別で時間調整を行っていた。以前はコアスタッフから声をかけないと進まなかったが、5年目の現在はスタッフから時間調整を行うようになってきている。
 《研修時間》
 昨年までは2項目ずつを50分かけて指導していた。身体の使い方や重心移動が上手になってきたことで、今年は4項目を約1時間で行うことができている。さらに、各スタッフの身体機能に合わせて、より詳細な身体の使い方を指導中★

今後の展望

法人内では、なの国だけでなく法人全体にノーリフティングケアの良さを広めてほしいという声が高まっています。

地域講座でもノーリフティングケアを紹介して、参加者からは「これは楽ね！」「知らなかった！役に立ちました！」など感嘆の声があがりました。

なの国は、取り組みを始めて5年となります。全てが上手くいっているわけではありませんが、少しずつノーリフティングケアが浸透してきてスタッフの成長が見える1年となりました。

これからも協力してくれるスタッフとともに楽しく前向きに歩み続けます。

